



イスラエル建国の父ヘルツルを支えたクリスチャン

by One for Israel

☆ テオドール・ヘルツル — イスラエル建国の父 (1860年～1904年)

- * ハンガリー生まれ。18歳でオーストリアのウィーンへ。
- * 新聞記者としてフランスで起きたドレフュス事件取材し、ヨーロッパでの反ユダヤ主義に衝撃を受け、祖国再建のためのシオニズム運動を開始。
- * 1896年 著書「ユダヤ人国家」を出版。
- * 1897年 第一回シオニスト会議がスイスのバーゼルで開催される。
- † 1904年 44歳の若さで逝去。

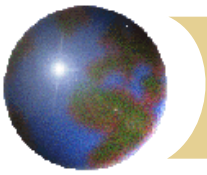
♣ ウィリアム・ヘックラー師 — 英国国教会 牧師 (1845年～1931年)

- * 1845年 宣教師の子としてインドで誕生。
- * 1850年 母の召天に伴い、英国の寄宿学校に入学。バーゼルの寄宿学校にも在籍経験がある。
- * 1866年 ドイツに転居 (バーゼル居住時代の経験によって、独語も堪能であった。)
- * ユダヤ人伝道に熱心な父親の影響で、若いころからユダヤ学・聖書預言・終末論を熱心に学ぶ。
- † 1931年 召天

☆ 2人の出会い

- * 無神論者のヘルツル：ドレフュス事件やロシアでのポグロムなど19世紀末ヨーロッパにおける反ユダヤ主義の高まりを実感して、ユダヤ人国家再建の必要を訴え、行動を開始。
- * クリスチャンのヘックラー：英国国教会で訓練を受けてウィーンの英国大使館に牧師として派遣される。ダニエル書や黙示録の学びから1897年を預言的に重要な年だと考えていた。
- * 1896年 ヘルツルの著書「ユダヤ人国家」を読み、ヘルツルを探し出し、会いに行く。啓示された神のご計画の成就を願う思い。





☆ヘックラーによる支援

- * ヘックラーは、ドイツのバーデン大公の家庭教師をした経験を持つ。⇒ヘルツルのためにドイツ皇帝謁見のお膳立て。⇒ドイツ皇帝は、パレスチナの当時の支配者トルコのスルタンと会談し、聖地におけるユダヤ人国家再建の許可を要請。⇒トルコは拒否。
- * 謁見の必要性の背景：シオニズム運動に多くのユダヤ人が賛同し、自分を運動のリーダーとして認めてもらうために、ヘルツルは、国家元首など国の指導者レベルの人たちとの関係を築きたかった。
- * 合理的に物事を進めるヘルツルに「あなたの運動は聖書的だ」と評価して全力で支援。常に有益な助言を与え続けた。ヘルツルは晩年に「私の代わりにパレスチナに挨拶してほしい」とヘックラーに依頼。
- ✚ ユダヤ人を愛し、イスラエル再建のために、尽力したヘックラーの思い：神のご計画の成就。みことばで啓示された通り御心が成るように。

☆ヘックラーのフラストレーション

- * 1917年 バルフォア宣言～英国の委任統治下にあるパレスチナの地にユダヤ人国家再建を約束したものの、余り移住したがないユダヤ人たち
- * ヨーロッパにおける反ユダヤ主義は、悪化するとヘックラーの確信
- * 1931年ホロコーストの悲劇が起きる前に、召天。

☆その後 建国に向けて

- * 1947年 7月 エクソダス号事件 — ホロコーストを生き延びた4,515人のユダヤ人を乗せた船エクソダス号。パレスチナのハイファ港に到着したが、この地を委任統治していた英国の移民制限政策によって下船できず、フランスへ送り返された。
- * 1947年11月 国連パレスチナ分割決議
- * 1948年 5月 イスラエル建国

✚ ヘックラーの心

神への愛、神の民への愛、預言を通して啓示された神のご計画の成就を願う思い

